シナリオ開始 / 描写・判定

【臨床実験室Ⅰ】
そこは、自分たちがはじめに目を覚ました病室「臨床実験室Ⅰ」である。
目の前には複数のベッドがあり、カーテンがかけられている。

・カーテンがかけられている複数のベッド
白いカーテンがかけられている病室のベッド。中の様子は分からない。

※探索者がカーテンを開けると宣言した時

前日とは明らかに様子が違う、呼吸器をつけて少し苦しそうな表情を浮べる自分の姿があった。
呼吸器からは酸素が送り込まれており、目立った外傷はないものの、
健康体ではないことが素人目にでも分かる。

◎<医学>※自分の身体に対して
痛みにうめくような動作をしていることが分かり、今の自分の身体の状態と、
ベッドで横たわっている自分の身体の状態が同程度であることが分かる。
☆クリティカル
両足に何か違和感を感じるが、特に目立った外傷などはない。

◎<目星>※「電子カルテを探す」と明言があった / 前日電子カルテを発見していれば自動成功
（前日と同じように）医療機材の中から「電子カルテ」を見つけることができる。

◇電子カルテ「被験体情報」
【新薬γ（ガンマ）臨床実験の被験体】
この被験体情報は秘匿されています。
秘匿解除には「CODE:RED」の ID 認証が必要です。

※「臨床実験室Ⅰ」から得られる情報は以上。

GM 情報 / 補足情報

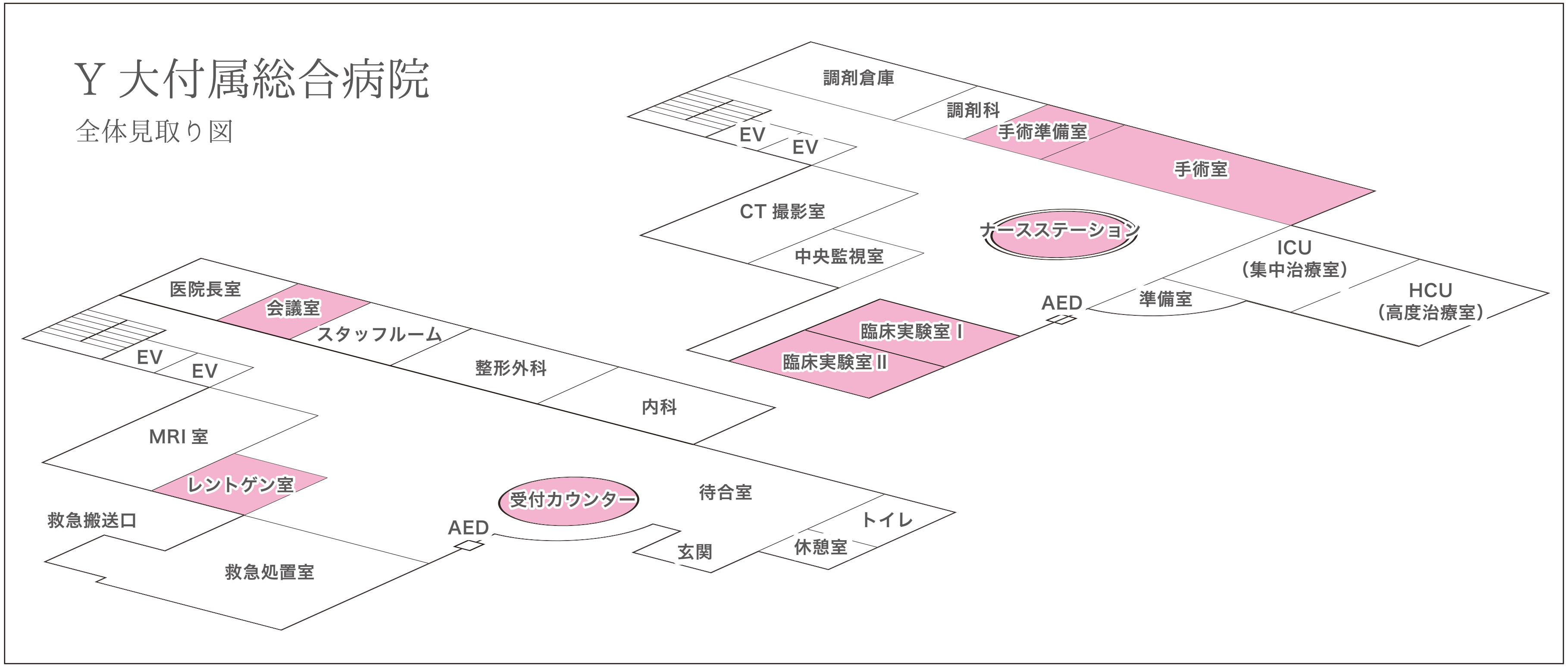
ここまでの「臨床実験室Ⅰ」の間取りや描写は前日と変化無し。（ベッドと扉、窓がないなど）
１日目の PDF に描写した【廊下へ出る扉】と【病院内の廊下】も同様変化はない。
探索者から「廊下に出る」と宣言があり次第、２日目の探索マップを表示・探索開始。

時間遡行により新薬効果測定術後（両足切断）の観察経過・監視状態。
<医学>や AED を使用しても意識を取り戻すことはない。（HP の回復判定は可能）
切断された両足は【手術室】のダストカンに捨てられている。

意識と身体がリンクしていることを自覚できる情報。
クリ判定は、両足への違和感は効果測定手術により、両足が切断された後に回復したため。
現実的にはあり得ない現象が起きているため、言葉にできない違和感や感覚といったところ。

電子カルテの情報は、既に「CODE：RED」の ID カードを取得している場合は解除される。
前日の探索で取得していない場合は、以降の電子カルテから情報は開示されることはない。

※解除後の情報
新薬の効果は発揮されている。とても順調。
経過具合を見て内藤医院長に新薬の臨床実験の結果を報告する。
副作用の効果は引き続き計測を続ける。



【描写・探索可能一覧】

- **臨床実験室Ⅱ**／被験体１号、２号の身体の状態と電子カルテ
- **手術室**／ダストカンから CODE：BLUE の ID カード
- **手術準備室**／モニターから新薬効果測定についての内部メッセージ
- **会議室**／タブレットから副作用についての言及
- **レントゲン室**／探索者自身のレントゲンと次回シナリオの伏線
- ナースステーション & 受付カウンター／病院内スケジュール
- AED ／充電されてなく、明滅している（前日に充電していない場合）
- 玄関／シャッターが閉まっており、外に出ることはできない

【2 日目の探索におけるポイントとテストプレイからの PL 行動の傾向】

取得する情報の優先順位が高い探索場所として**「手術室」と「臨床実験室Ⅱ」**
自分の身体の変化と NPC 被験体の変化から『時間遡行』にたどり着く可能性がある。
また、前日の探索にて２色の ID カードを取得できるかで『時間遡行』に説得力を持ってたどり着けるかどうかが決まる。行動傾向として「ナースステーション（受付カウンター）」でスケジュールをとりあえず確認することが多い。リスクが少ない**「会議室」**と**「レントゲン室」**が次点。
「臨床実験室Ⅱ」も前日の探索で NPC 被験体の状態を確認するという行動も見られた。
「手術室」が一番入りにくく、切断された人間の足が詰まっているダストカンの中を詳しく調べるとIDカードを取得することができる。そのダストカンの中を詳しく調べられるかは、探索者のイメージカや倫理観次第で発見できるかどうか分かれるところ。
「EV」は１階に止まっているが、扉を開くことができない。

探索パート

【臨床実験室Ⅱ】

探索者が意識を取り戻した病室と同じ間取りの部屋である。
とてもきれいな印象を受け、カーテンがかけられているベッドが 2 つある。

◎＜聞き耳＞※宣言があった場合のみ
目の前にあるベッド（右のベッド / 第 1 被験体）から強い腐臭が漂ってくる。
もう一方のベッド（左のベッド / 第２被験体）から鉄臭い、血の匂い。

第１被験体は処分された状態から、腐乱死体へと状態が戻っている。（時間遡行しているため）
第２被験体は腐乱死体から両足が切断された身体（新薬効果測定術後）に状態が戻っている。

・カーテンがかけられている 2 つのベッド
白いカーテンがかけられている病室のベッド。中の様子は分からない。

※探索者がカーテンを開けると宣言した時

・カーテンのかかったベッド（1 つ目 / 右のベッド）
カーテンを開けて中の様子を確認すると、人間のカタチをした腐った身体が
ベッドの上に横たわっていた。その身体は、性別が分からないほどに腐敗しており
目を覆いたくなるような光景と匂いで強い嫌悪感を感じる。
　始めて光景を見た探索者：SAN チェック 0/1d4
　前日既に腐乱した身体を見ている探索者：SAN チェック 0/1d2
ベッドの脇には医療機器が整理され置かれており
このベッドに付属している「電子カルテ」を発見する。

第１被験体と第２被験体の描写を間違えないように注意すること。
探索者にとって、どちらのベッドからどのような状態の身体が発見されたか重要情報となる。

１日目の探索では「削除」と表記されていたが２日目から「秘匿」という表記に変わっている。
前日の情報を復元することは不可能。（時間遡行しているため、文章自体が存在しない）

◇電子カルテ「被験体情報：第 1 被験体」
この被験体情報は秘匿されました。
秘匿解除には「CODE:BLUE」の ID 認証が必要です。

※解除後の情報
これが「成れの果て」なのか。この被験体は新薬の効果に耐えられなかったのか。
腐乱が進むようであれば処分する。もう一方の被験体の経過もあまり思わしくない。

◎＜医学＞※被験体第１号に対して
腐敗した身体は既に意識はなく、呼吸だけはかろうじてできている。
いわば植物状態に近い状態ことが分かる。また、両足が太ももから欠損していることに気がつく。

前日の第２被験体と同じ状態。
脳死、植物状態であることから生きてはいるが何も感じない状態。

・もう一方のカーテンのかかったベッド（2つ目）

カーテンを開けて中の様子を確認すると、そこにはひとりの女性がベッドで
痛みに表情がすがんでいる姿があった。呼吸器をつけており顔や腕の一部が腐敗していることに
気がつく。なにより、無惨にもその女性の両足がなく、断面から大量の血が流れ出ている。

SAN チェック 0/1d4

ベッドの脇には同じく「電子カルテ」が設置されてある。

◇電子カルテ「被験体情報：第２被験体」

この被験体情報は秘匿されています。
秘匿解除には「CODE:BLUE」の ID 認証が必要です。

◎<医学>※第 2 被験体に対して

傷口、切断面を見る限り人の手によって切断されたことが分かる。
切断されてからは数時間と経過していない。ろくな処置もされず放置されていることが分かる。
両足切断で出血性ショック状態に陥るはずであるが、医療機器により生かされている状態。

※この時点で【臨床実験室Ⅱ】から得られる情報は以上。
※技能による判定があった場合、投薬機の針を進める。

前日の探索で投薬機と AED の機能に気がついていない場合には、
探索者が「他の部屋に移動する」と宣言があった場合、どちらかの判定を入れる。KP 任意。

◎<目星>が一番高い探索者ひとり

AED が明滅していることに気がつく。近づくと、充電がされていないことが分かる。
充電ボタンがあり、そのボタンを押すと点滅が消えて充電中の状態に変化する。
※充電ボタンを押すか押さないか選択肢を出す。
※充電ボタンを押すと点滅が消えて充電中の状態に変化する。
（失敗した場合は、何も気がつかない）

◎<アイディア>が一番高い探索者ひとり※探索者が投薬機に注視していない場合

他の探索者の腕に取り付けられた投薬機が目に入る。
時間が進んでいることに気がつく。（失敗した場合は、何も気がつかない）

前項の通り腐乱状態から両足を切断された状態に戻っている。
悲痛な表情を浮かべているが意識はない状態。
この被験体に対して医療処置（HP を回復させる目的の<応急手当>や<医学>）は効果がない。

※解除後の情報

新薬の効果測定のため、両足を切断した。再生することに期待する。
ただ、１つ気になるのが身体の一部に腐敗している部分が見られることである。
経過を見て腐敗が進むようであれば処分を検討する。

廊下に出る時扉の脇に設置してあるモニターから、2 日目の病院内のマップを提示する。

３日目の探索で探索者は両足を切断される。

そのため「出血性ショック / 心停止」に陥りそこから復帰するには AED が必要となる。

【ナースステーション】及び【受付カウンター】

前日と様子は変わらず、「タッチパネル式のモニター」が 2 台設置してある。

・タッチパネル式のモニター（2 台とも同じ情報）
患者情報やこの病院のスケジュールのデータが管理されている。
気になる項目として「病院内スケジュール」の項目を見つける。

◇モニター「病院内スケジュール」
・本日の予定
新薬実験の効果測定手術 / 術後の処理・経過観察 / スタッフ会議 / 一部スタッフの ID 再発行

※この時点で【ナースコールセンター / 受付カウンター】から得られる情報は以上。
※技能による判定は存在しないので投薬機の様子に変化はない。

【手術準備室】

様々な医療用具や電子機器が揃えられ設備が充実している。
高度な手術も対応できることが医学に精通していない者でも感じ取れる。
電子パネルのモニター画面が光っており、そこには「送信メール」の内容が記されている。

◇電子モニター「内部メッセージ」
手術担当医 ＞ 内藤医院長
予定していた被験体の新薬実験効果測定手術がすべて終わりました。
最低限の処置しかせず、臨床実験室にて経過観察へ移ります。経過の報告は後日に。

◎<追跡>or<医学>※医療道具に対して
医療機器や器具の配置が変わっている。消耗品や薬品などが消費されており、
どうやら手術に必要な医療器具を使用した形跡がある。
また、消毒・洗浄されたばかりの白衣やメス、止血鉗子（かんし）などが壁にかけられている。

◎<目星>※洗浄された白衣に対して
白衣の中から ID カードを入れるケースを見つけるが、ID カードは見当たらない。
※この時点で【手術準備室】から得られる情報は以上。
※技能による判定を行った場合、投薬機の針を進める。

探索パートに入る前に、１F の【受付カウンター】と 2F【ナースステーション】から
同じ情報が出ることをアナウンスする。探索はどちらか一方でかまわない。

「一部スタッフの ID 再発行」については、手術担当医が新薬効果測定の手術中に
ダストカンに誤って ID カードを落としてしまい紛失している。
また、前日に「CODE：RED」の ID を探索者が所持している場合
「CODE：RED」の ID カードが紛失していると思わせ、
日付が実際の時系列のように経過しているように見せるミスリード文。

部屋の様子はモニター以外、目立った変化はない。
前日にこの部屋の探索を捨てている場合には、「前日と比べてあまり変化がない」と明言を避ける。
描写の言い回しは、各 KP 注意を払う。

実際の時系列では探索者、NPC 被験体の効果測定手術は完了している。
最後に両足を切断されたのは第２被験体。探索者と第１被験者は既に終わっている。

探索者から、「医療機材に変化はあるか」「前日 ID カードが見つかった白衣はあるか」と
具体的に言い当てた場合は左記の判定に自動成功。判定の基準は各 KP 任意。

プラスチックの首から下げる名札ケースのようなイメージ。
「白衣を詳しく調べる」の宣言で<目星>判定。「ポケットを調べる」の宣言で自動成功。
ケースのふちは青くなっているなどの描写を入れても良い。

【手術室】

白い室内は広く、壁には複数のモニターが設置され天井からは大きな照明が下がっている。
手術台は2つ並べられており、今までに見たこともない医療機器や用具が設置されていた。

◎<目星>or<聞き耳>※足下を注視する、描写以外に他にものが落ちていないかなど
手術台の付近に設置されている、大きめのダストカン（ステンレス製のゴミ箱）から
鉄くさい血の匂いを感じる。蓋は閉まっている状態で中身が分からない。

※探索者がダストカンを開けて中身を確認すると宣言があった場合

ダストカンの中を確認した探索者はその光景に表情を歪ませ嫌悪感をあらわにする。
そこには、ダストカンいっぱいに血液がたまっておりその中には
切断されたであろう複数の「人間の足」が雑多に捨てられていた。
血なまぐさい匂いも相まって探索者は激しい嫌悪感に吐き気を催す。
SAN チェック 1/1d4+1
※ダストカンから発見された本数を伝えた方が良い。
　描写だけだと分かりにくく、リアル SAN 値へ影響を与えるため。

◎<医学>or<目星>※発見された足に対して
そこには探索者の足が含まれていることに気がつく。技能判定した探索者は SAN-1
<医学>限定：腐敗している様子はなく、切断されてか 1 日から 2 日経過していることが分かる。

ダストカンの中身をすべてひっくり返す。血を捨てるなどの行動をとった場合

◎<幸運>※行動内容によっては自動成功
ダストカンの中から血にぬれたカード状の何かがぷかぷか浮いてくるのを発見する。
手に取ると、「CODE：BULE」の ID カードであることが分かる。

※この時点で【手術室】から得られる情報は以上。
※技能による判定を行った場合、投薬機の針を進める。

天井から下がってる照明と手術台にはなにもない。
医療機器に関しても人間が知り得る<医学>の知識では図り得ない。

天井から下がってる照明、もしくは、手術台を詳しく調べる。などの簡単な宣言があった場合
右記の<目星>or<聞き耳>で判定。
<目星>であれば、匂いは感じないがダストカンを発見することができる。
<聞き耳>であれば、ダストカンは見つけられないがどこからか血の匂いを感じる。
探索者のロールプレイから、判定の加減は各 KP の任意で決定する。

ダストカンに捨てられている人間の足の本数は「探索者の数 ×2+4」
探索者の人数が 4 人であれば「4×2+4」で 12 本。
同様に 5 人であれば「5×2+4」で 14 本となる。参加人数によって KP は足の本数を編集する。

捨てられている足は、探索者の足（両足）と NPC 被験体の足（ともに両足）である。
第 1 被験体は男性、第 2 被験体は女性という設定なので見た目から
男性の足が二本一対、女性の足が二本一対発見できる。

探索者の足は「実際の時系列」にて切断された後に再生している。
そのため、ベッドにある探索者の両足は再生しているが、
意識を取り戻したときに感じた痛みは、両足切断の術後回復途中の痛みである。

CODE：BLUE の ID カードは、この日のこの場所でしか入手不可能。
入手できなければ NPC 被験体の情報が分からなくなり難易度は若干上昇する。
温情で誘導しても良いが、無理にこの ID を発見させる必要はない。各 KP の難易度設定次第。
ID カードがなくても時間遡行しているという仮説を建てることができ、
その仮説をひも解けばつじつまが合うので難易度はもとより高くはない。

【会議室】

白を基調とした広い部屋の中央には、大きな長机と両サイドには椅子が並べられている。
一般的な会議室のイメージであり、特に変わった様子などは感じられない。
ただ、一番奥の正面の壁にはホワイトボードなどではなく、大型モニターが埋め込まれている。

長机の中に椅子がしまわれている状態。椅子の数は決まっていないので KP の任意。
その場で 2d20 などを振り、重要ではないことを暗示させても良い。

・大型モニター
大型モニターには、会議の内容が記されてていたことに気がつく。
この病院の医院長から医療スタッフ向けに議題があがっていたようだ。
しかし、内容は既に削除されている。

内容の復元に<コンピュータ><電子工学>などの技能を振っても自動失敗。
もし、探索者が振ろうとした場合には「振るまでもなく自動失敗」であると伝えても良い。

◎<目星>※会議室を詳しく探索する場合
長机にしまわれた椅子の上にスタッフのものと思われるタブレットが置いてあることに気がつく。
スタッフが会議の内容をメモしていたようだ。

◇タブレット「会議の内容」
CODE：RED には赤い新薬を投与している。
CODE：BLUE には青い新薬を投与している。
このまま経過観察を続けるが、CODE：BLUE に例の兆候が見られる。
それに関連して、新薬の副作用としては 2 つ。
1つは新薬の構成要素ともなっていることから「欠損や疾患の記憶を忘却」
もう1つは内藤医院長も検証中とのことだが
あの内藤先生でも分からないことが本当にあるのだろうか？

新薬が 2 種類あることを確定させるためのヒント。
例の兆候とは、成れの果てにいたるまでの身体の腐敗。
副作用の効果のひとつ「記憶の忘却」が開示される。

「内藤医院長」と「その他のスタッフ」では視点が異なる。
内藤医院長はすべてを知っている上で、この病院のスタッフの行動も観察している。
スタッフには青い新薬は失敗薬であることと副作用（時間遡行）のことを知らされていないため、
スタッフ視点からの経過観察から「新薬に耐えられない場合、成れの果てとなる」
という見解を出している。
※CODE：RED の秘匿情報解除後の情報参照。

※この時点で【会議室】から得られる情報は以上。
※技能による判定を行った場合、投薬機の針を進める。

【レントゲン室】

中央にはレントゲン撮影機材と患者を乗せる台があり、
壁際には発光板に照らされて複数枚のレントゲン写真が貼られている。
X 線撮影のため、電子モニターなどの余分な電子機器は室内には見当たらない。

◎＜医学＞or 職業：医者限定＜知識＞※撮影されたレントゲンに対して
身長や骨格から、探索者自身のレントゲンであることが分かる。
両足の太もも辺りに何か医学的検知から見て違和感を感じる。
しかし、具体的には分からない。

◎＜アイディア＞※上記の情報を探索者 / もしくは全員に共有した場合
レントゲンの結果から、目覚めたときの痛みは両足の太もも辺りから感じる。

ロールプレイなどで「レントゲンを実際に撮影する」ことが可能。
しかし、医学の知識がないと撮影することはできない。

撮影結果は同じ発光板に貼られていたレントゲンと同じレントゲン写真撮影できる。
また、撮影には足（ふともも）の部分を見せなければならない。
探索者の身体には手術や怪我をしている、その痕跡が全くないことが分かる。

※この時点で【レントゲン室】から得られる情報は以上。
※技能による判定を行った場合、投薬機の針を進める。

発光板に貼られたレントゲン写真の枚数は探索者の数にあわせる。
そのレントゲンは探索者のレントゲン写真である。

切断された両足が再生するという事象は、人間が想像できる範囲を超えているため
知識として持ち合わせていない。なので、具体的な結果は分からず違和感として感じる。

切断された両足から痛みが生じている。意識が戻ったときの＜幸運＞判定の描写に
「動きが鈍い」と描写したのもそのためである。

レントゲンを撮影するにあたり＜写真術＞など他の技能で判定を行う場合
応用可能かどうかは各 KP の考え方にゆだねる。

※探索が終了し、投薬機の針が真上に戻った時に下記のイベントが発生。

ひと通り、探索を終えた探索者たちは前日と同じように
腕から全身に何かが浸透するかのような感覚とそれと同時に非常に強い眠気に襲われる。
その場で昏倒し意識は徐々に遠のいていく。
気がつくと。前日と同じように【臨床実験室Ⅰ】に立っている状態で意識をが戻っている。
同じように他の探索者の姿も見えるが少し様子がおかしい。

◎<幸運>※探索者全員強制
成功：両足に堪え難い痛みを感じる。また、その痛みもあってか
　　　明らかに自分の足取りが重く、動きが鈍い。ダメージ 1d3
失敗：激痛に耐えきれずショック状態に陥る。現在 HP の半分のダメージ+ショックロール

◎<医学>※意識がある探索者限定
探索者の状態を見るに「出血性ショック状態 / 心停止」であることが分かる。
しかし、外傷などは見られずなぜこの状態になっているのか見当もつかない。

意識がある探索者で、ショック状態の探索者に AED を使用することができる。
医療の知識がなくても、一般的な AED の使用説明欄にはイラスト付きで使い方が記載されているため判定などはなく自動成功。

※この次点から3日目の「臨床実験室Ⅰ」の描写に入る。
※次データへ移動
　→ フォルダ『02_ シナリオ本編 / キャンペーン用』 →『3日目 .pdf』へ

「前日」と描写しても良い。日が経過していることをメタ的に刷り込ませる目的。

「様子がおかしい」という描写については自身を含め、
他の探索者も両足が切断される痛みに表情をゆがめているため。
中には<ショックロール（CON*5）>に失敗してしまい、
その場で倒れている探索者がいるかもしれない。という想定。

<医学><応急処置>で HP は回復できるが意識を取り戻すことができない。（心停止のため）
意識を失っているため「痛み止め」を服用することも不可能。

初日、あるいは 2 日目に「AED」の充電をしていない場合
意識を失った探索者は、この3日目の探索に参加することはできない。
他の探索者のサポートとして PL 発言は可能。
しかし、各卓のハウスルールや各 KP の判断を重視する。
※一時的に「PL 発言禁止の観戦者」になってもらうか「PL 発言を許すか」は KP の任意。

<幸運>に全員が失敗し、<ショックロール（CON*5）>に全員が失敗する可能性はまれである。
しかし、万が一にその状況が生まれてしまった場合
行動可能な探索者がいなくなるためその時点で BAD エンドとなる。
あまりにも不運・理不尽であるため各 KP の判断・温情で数名かを復帰させてもかまわない。
また、全員意識を失ったということで『4 日目の探索』へ移動するということも可能。